

Hara Museum of Contemporary Art

蜷川実花 うつくしい日々

2017年5月10日 [水] — 5月19日 [金] 原美術館 [東京・品川]



《図版1》

— 朝起きたら信じられないくらい空が青くて、あまりにも綺麗だった。
どうせ逝くならこんな日がいいよね、って思った。—

おそらくは、本当に大切な人や自身の死と向き合う時の感受性でしか見えない景色があります。体のどこかに常に不安と悲しみを宿しながらも、ふと見上げた空の青さに、芽吹く若葉に、風の薫りに、キラキラとした生を見る——『うつくしい日々』はそのような感受性で撮られた作品です。

本展は、蜷川実花が、父・幸雄の死に向き合う日々を撮影した写真約60点で構成されます。彼女が「逝く人の目で撮った写真」と表現するように、一点一点に、この美しい世界と別れゆく父の視線と、それを受け継ぐ娘の視線が重なります。作品に写る「生まれ」の標識の先に歩みが続くように、命は止まったようでありながら、娘へ、そしてその子供へと繋がれていきます。

『うつくしい日々』が撮影されたのは昨年（2016年）の春。本展は同じ季節に開催される10日間のかげがえのない展示となります。

Hara Museum of Contemporary Art

【開催にあたり】

原美術館では、2015年に蜷川実花の個展「Self-image」展を開催しました。あれから1年の間に写された蜷川幸雄と蜷川実花の“うつくしい日々”は、作家本人が「どうしてこんな写真が撮れたのかわからない」というほどこれまでの作品とは一線を画しています。人の生死、喜びと悲しみが共存する個人宅であった当館こそ、その公開に相応しいという思いから、スケジュール上、たった10日間の展示となりますが、開催に踏み切りました。『うつくしい日々』が撮影されたのは昨年春。同じ季節に開催されるかけがえのない展示となることでしょう。

【作家略歴】

東京生まれ。ひとつぼ展グランプリ、キャノン写真新世紀優秀賞、コニカ写真奨励賞、木村伊兵衛写真賞、大原美術館賞（VOCA展）など数々受賞。活動開始と同時に毎年写真集を発表し、現在までに100冊以上を出版。2007年に公開された『さくらん』では長編映画初監督も務める。同作は国内だけでなく、第57回ベルリン国際映画祭及び第31回香港国際映画祭の正式出品特別招待作品となるなど、国内外で高い評価を得た。2008年11月に東京オペラシティアートギャラリーから始まり全国の美術館を巡回する大規模な回顧展「蜷川実花展 一地上の花、天上の色一」を開催、のべ18万人を動員する。2010年、Rizzoli N.Y.から写真集を出版、世界各国で話題に。2012年には『ヘルタースケルター』にて映画監督として第2作目を発表、新藤兼人賞銀賞を受賞。2016年、台湾の現代美術館（MOCA Taipei）にて大規模な個展を開催し、同館の動員記録を大きく更新した。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事に就任。 <http://www.ninamika.com>

【開催要項】

展覧会名	蜷川実花 うつくしい日々 欧文表記 <i>Mika Ninagawa : The days were beautiful</i>
会期	2017年5月10日[水] - 5月19日[金] 開館日数 10日（会期中無休）
主催・会場	原美術館
企画協力	小山登美夫ギャラリー、有限会社ラッキースター
協力	株式会社河出書房新社、株式会社東京スタデオ、富士フイルムイメージングシステムズ株式会社、株式会社フレームマン、町口覚、KEYS AND BRICKS、コエドブルワリー、与謝娘酒造
開館時間	11:00 am - 5:00 pm（水曜は8:00 pmまで／入館は閉館時刻の30分前まで）
入館料	一般1,100円、大高生700円、小中生500円／原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は小中高生の入館無料／20名以上の団体は1人100円引
交通案内	JR「品川駅」高輪口より徒歩15分／タクシー5分／都営バス「反96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩3分／京急線「北品川駅」より徒歩8分
関連イベント	5月14日[日] 11:30 am - 1:00 pm 「対談 蜷川実花×飯沢耕太郎」を開催。詳細はウェブサイトへ。

*5月14日[日] 当館学芸員によるギャラリーガイドを実施（2:30 pmより30分程度）

写真集『うつくしい日々』を発行 [河出書房新社、本体定価1,800円（税別）、A4変型、80ページ、オールカラー、5月11日[木] 発売]



Hara Museum of Contemporary Art

原美術館 東京都品川区北品川 4-7-25 〒140-0001

Tel 03-3445-0651

E-mail info@haramuseum.or.jp

<http://www.haramuseum.or.jp>

<http://mobile.haramuseum.or.jp>

<http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum>

<http://twitter.com/haramuseum>

【広報用図版】

図版1がメインビジュアルです。一点のみ掲載の場合こちらをご使用ください。トリミング、文字載せはご遠慮ください。必ずクレジットをご記載ください。

クレジット（図版全て）： ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery



《図版2》



《図版3》



《図版4》



《図版5》



《図版6》

取材・図版提供などのお問い合わせ先:

原美術館広報 松浦、野田

(担当学芸員 坪内)

Tel 03-3280-0679 Fax 03-5791-7630

E-mail press@haramuseum.or.jp

(いずれも広報直通/掲載時には代表番号・アドレスをお用ください)